

高校生と語る 未来の安曇野

ふれあいミーティング in 明科高校

高校生との意見交換を通じて、安曇野の地域づくりを語り合う「ふれあいミーティング」。
7月27日に明科高校で開催しました。 図書館広報課 TEL 71・2400 FAX 71・5000

長野県明科高等学校

昭和61年に開校した県内で最も新しい県立高校の一つ。「創造 気力 友愛」を教育方針に掲げ、開校以来5,582人が卒業。地域交流も盛んで、地元住民と語り合う「明科高校を語る会」の主催や、あやめまつり、潮神明宮のお船祭りなどにも参加し、生徒たちは地域の担い手としても活動している。



ワークショップによる議論

市 民が、市長と直接対話をし、まちづくりを共に考える「市民と市長のふれあいミーティング」を明科高校で開催しました。市からは、市長、教育長、政策部長、都市建設部長、教育部長らが参加。明科高校からは、校長をはじめ、生徒会役員ら22人が参加しました。

地域と学校の魅力づくり

今回のふれあいミーティングは、生徒会が主体となって事前準備や当日の進行を務めました。はじめに明科高校のあらましと地域交流の様子を映像で紹介。「あやめまつり」などの地域活動への参加をはじめ、同校とゆかりの深い東山魁夷が残したメッセージなども紹介されました。

その後、参加者は5グループに分かれ、「地域と学校の魅力づくり」をテーマに討論を開始。生徒からは、日ごろ、安曇野に通学していて感じることや、魅力づくりのためのアイデアが発表されました。高校生とのふれあいミーティングは、平成31年2月の穂高商業高校から始まり、今回の開催で、市内すべての高校での実施となりました。



明科高校生徒が考案したあやめまつりキャラクター「リーリオ」

国の大臣賞も受賞

地域交流を活発に取り組む

明科高校生徒会では、地域活動に参加し、交流を通じて社会性を磨く取り組みが盛んに行われています。具体的な活動例としては、地域づくりの実践の場として、まちづくり会議「明科いいまちつくり会!!」への参加、また、「あやめまつり」では、清掃ボランティアをはじめ、お祭りのキャラクター「リーリオ」の考案やステージイベントへの参加などを行っています。この活動により、一人一人が自分の可能性に気づき、自信を持って前向きな学校生活を送ることを目指しています。また、これらの取り組みが評価され、平成26年には内閣府特命担当大臣「社会貢献青少年表彰」等も受賞しています。



潮神明宮のお船祭りでのえい行



高校生との意見交換会 グループ発表の要旨

明科高校と地域の課題

● **他校との連携** 生徒が減り、部活動の運営が難しくなっている。現在は他校と合同で部活を行うなどして対応している。一緒に活動することは、新たな視点を得られて良い部分もある。人数が足りなくてできない活動や授業は他校でも受けられるようにするなど補い合えると良い。

● **地域の交通** 市では、乗り合いタクシー「あづみん」の路線を明科高校前まで延長し、16時台の便を増やしました。市内の通学生のほか、多くの皆さんに活用いただきたい。生徒側の意見としては、部活などで帰宅が遅い場合など、JR篠ノ井線の本数は少なく不便を感じる。市でも篠ノ井線活性化の団体に参加しているが、他路線への影響もあるなど、難しい課題。

魅力発信に向けて

● **里山を生かす** 明科地域は里山や水辺など自然環境が豊か。長峰山も多様な生物がいて、珍しい生き物も見られる。歩きやすく整備したり、「SNSの映えスポット」を作るのも良いのでは。「ちょっと見てみたい」と気軽に立ち寄れる自然スポットがあれば魅力的。学校でも、自然環境を生かした生物部などの活動も考えられる。また、手作りCMを制作し、県内・全国にPRするのも効果があると思う。

● **水辺を生かす** 龍門淵公園には、多くのカヌー愛好者が訪れ、大会なども催されている。コースは比較的易しく、初心者でも始めやすい場所だといわれている。この資源を生かし、公園内に看板を設置して、積極的に宣伝してはどうか。高校でも、体育の授業や部活でカヌーに取り組むのも魅力づくりにつながるのでは。

● **まちなかを生かす** 明科駅周辺の歩道の狭さや設備について生徒から意見があったが、現在、進んでいる明科駅前周辺整備によって、課題の一部は解消できる見込み。交流の場を新たに設けることは難しいかもしれないが、今ある施設を生かすことも必要。高校生が講師となり、地域の高齢者に「スマートフォンの使い方教室」を開く機会があれば地域交流も図れる。